

い〔既名誉会員と重複しないようご留意下さい〕。

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5

日本化学会総務部「名誉会員候補者推薦」係

電話(03)3292-6162 FAX(03)3292-6318

E-mail: soumu@chemistry.or.jp

現在の名誉会員一覧（推戴年次順）注：7月20日現在

（敬称略）

【特別名誉会員】常陸宮正仁親王殿下

【邦人】

古川 淳二	斎藤 信房	鶴田 禎二	藤永太一郎	長倉 三郎
岸本 泰延	向山 光昭	吉田 善一	田丸 謙二	本多 健一
田中 郁三	西島 安則	井口 洋夫	山崎 一雄	山本 明夫
関 集三	柴田 承二	松井 正直	鎌田 仁	
齊藤 喜彦	櫻井 英樹	田村 三郎	野崎 一	永澤 満
中西 香爾	坪井 正道	菅 宏	廣田 榮治	三浦謹一郎
森 謙治	大村 智	鈴木 昭憲	野依 良治	池原 森男
山寺 秀雄	園田 昇	伊勢 典夫	朽津 耕三	井上 祥平
小川 智也	岸 義人	宗宮 重行	白川 英樹	伊藤 光男
国武 豊喜	西村 暹	米澤貞次郎	伊藤 公一	岩村 秀
木下 實	村橋 俊一	山田 康之	大木 道則	鈴木 章
瀬谷 博道	辻 二郎	藤嶋 昭	茅 幸二	柴崎 正勝
御園生 誠	村井 眞二	田中 耕一	堀越 弘毅	又賀 昇

【外国人】

WITKOP, Bernhard (アメリカ)

ROWLAND, Frank Sherwood (アメリカ)

BUSCH, Daryle H. (アメリカ)

LEHN, Jean-Marie (フランス)

LEE, Yuan T. (台湾)

KROTO, Sir Harold (イギリス)

COREY, Elias James (アメリカ)

STORK, Gilbert (アメリカ)

OLAH, George A. (アメリカ)

BLESLOW, Ronald (アメリカ)

HOFFMAN, Roald (アメリカ)

HUISGEN, Rolf (ドイツ)

【合計76名（邦人64名、外国人12名）】

## 日本化学会第88春季年会(2008)のお知らせ

第88春季年会実行委員会

標記年會を下記の通りの会期・会場で開催する予定です。

これに関連して「特別企画」企画案の募集と「特別講演」候補者の募集を行います。

産学連携のための企画“アドバンスト・テクノロジー・プログラム（略称 ATP）”を一部リニューアルし、実施します。また、実行委員会企画も5件企画する予定です。それぞれのセッションテーマは下記の予定です。特別企画に応募する場合にはこれらのテーマと重複しないようご注意ください。

**会期** 平成20年3月26日（水）午後～30日（日）

**会場** 立教大学池袋キャンパスおよび立教池袋中学校・高等学校（東京都豊島区西池袋）

本年会の予定は、次の通りです。最新情報は、春季年会ウェブサイト（<http://csj.jp/nenkai/>）にて随時公開します。

**講演申込締切日** Web申込 平成19年12月4日（火）〔送信有効〕

（募集要項は「化学と工業」10月号に掲載予定）

**予稿原稿締切日** (PDF) 平成20年1月23日（水）〔送信有効〕

**参加予約締切日** 平成20年2月29日（金）〔消印有効〕

（参加申込要項は「化学と工業」1月号に掲載予定）

**プログラム** 「化学と工業」3月号（平成20年3月1日発行）を使用します。同内容は春季年会ウェブサイトでも公開予定です。

## 予稿集発行予定日 平成 20 年 3 月 12 日 (水) [CD-ROM、冊子、Web 公開とも]

春季年会のアカデミック・プログラム (AP) の講演申込者および講演者は本学会員であることが義務づけられています。未入会の方はお早めに入会の手続きをして下さい。

入会については、日本化学会総務部会員担当までお問い合わせ下さい。

http://csj.jp/kaiin/

E-mail: member@chemistry.or.jp

電話 (03) 3292-6169 FAX (03) 3292-6317

### 1. 「特別企画」企画案の募集

毎年、春季年会のプログラムに「特別企画」が組み込まれ好評を得ておりますが、本年会でも会員の皆様より企画案を下記要項により募集いたします。応募いただきました企画案は、講演企画小委員会および実行委員会にて検討し、10 件程度を採択させていただきますが、企画案によっては修正をお願いする場合があります。

なお、応募の際には実行委員会企画およびアドバンスド・テクノロジー・プログラム (ATP) のテーマと重複しないようご注意ください。

応募締切日 平成 19 年 9 月 25 日 (火) [必着]

企画案の採択通知 10 月下旬

採択された特別企画は、11 月 16 日 (金) までに最終企画書を再提出いただきます。

特別企画は、3 時間の枠内 (9 時 30 分～12 時 30 分または 13 時 30 分～16 時 30 分) で自由に企画いただけます。特別企画は原則として初日と最終日に開催することとなり、開催日および時間帯は実行委員会が決定いたします。企画内容は下記のいずれかを満たす企画とします。また、講演者、座長の方への謝礼、旅費等はありません。

- (1) 産・官・学の意見交換を積極的に行うための企画
- (2) 新分野・新領域の開拓に向けての企画で産業界からの参加が見込まれるもの
- (3) 他分野への発展を図る企画や、学際領域を積極的に開拓するための企画
- (4) 研究最先端のトピックスをまとめて情報提供するための企画

応募方法 次の項目のすべてについてご記入の上、E-mail にてご応募下さい。

記入項目：

- (1) 企画タイトル
- (2) 趣旨文 (約 300 字)
- (3) 講演候補者氏名・所属・演題 (仮題でも結構です)
- (4) 開催予定日 (平成 20 年 3 月 26 日午後および 30 日の午前・午後) のうち、どうしても都合の悪い時間帯をお知らせ下さい。
- (5) 掲載予稿集分冊選択 (第 1 分冊・第 2 分冊のどちらかを選択して下さい。)
- (6) 予想聴講者数
- (7) 企画責任者氏名、所属 (官学界、産業界各 1 名)
- (8) 応募者氏名および連絡先 (勤務先所在地、電話番号、FAX 番号、E-mail)

問合せ先：日本化学会 企画部 年会係

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5

E-mail: nenkai-help@chemistry.or.jp 電話 (03) 3292-6163

### 2. 「特別講演」候補者の推薦について

第 83 春季年会から従来の外国人特別講演を特別講演と名称変更いたしました。講演時間は 50 分といたします。本年会会期中に日本に滞在され、これを機にご講演願える外国人候補者の推薦をお願いいたします。

ご推薦いただきました候補者については、講演企画小委員会および実行委員会にて検討し、採択させていただきます。

なお、実行委員会では、薄謝をお支払いするのみで、渡航費用、国内滞在費等のお支払いおよび接待はいたしかねますので、あらかじめお含み置き下さい。

推薦締切日 平成 19 年 9 月 25 日 (火) [送信有効]

以後、11 月 16 日 (金) までは事務局へご相談下さい。

推薦方法 次の項目のすべてについてご記入の上、E-mail にてご推薦下さい。

- (1) 講演候補者名、所属、国名と演題 (仮題)
- (2) 専門 (なるべく詳しく)
- (3) 略歴 (年齢もお書き下さい)
- (4) 講演希望日 (開催期間中で、半日単位、第 3 希望までお知らせ下さい。なおご希望にそえない場合もありますのであらかじめご了承下さい。例：3/27 午前)
- (5) 推薦者氏名および連絡先 (勤務先所在地、電話番号、FAX 番号、E-mail)

問合せ先：日本化学会 企画部 年会係

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5

E-mail: nenkai-help@chemistry.or.jp 電話 (03) 3292-6163

### 3. 委員会企画について

第 88 春季年会では春季年会実行委員会と学術研究活性化委員会の合同企画として、中長期的視点から以下 5 つの企画を準備中です。詳細は化学と工業平成 20 年 1 月号に掲載予定です。皆様の参加をお待ちしております。

#### 1. ケミカルバイオロジー研究の最前線 —生体システムへのアプローチ—

企画担当者：上村大輔 (名大院理)

本年 3 月の本学会年會において、委員会企画および先端ウォッチングとしてケカルバイオロジーに関する講演会が行われた。講演会場は立ち見を含め超満員となり、会場に入らなかった会員も多数おられたと聞く。この実績を踏まえ

て、ケミカルバイオロジーに関する講演会を次期年会において委員会企画として開催したい。前回の講演会で示された化学会員の高い関心から判断して、時をおかず、前回と違った視点でプログラムを編成することによって、会員の期待に応えることができると考える。

今回は、ケミカルバイオロジーの新展開を支える関連分野を含めて、主に有機化学分野で行われている基礎研究に焦点を当てた。次回の講演会は、さらに生物・医学分野に踏み込んだトピックスを中心にし、化学会員以外の講演者を広く招聘して、前回とは異なった切り口で企画したい。また、前回の講演会には、多数の企業会員に参加いただいたことから、この分野が産業的に注目されていることがわかった。今回の講演会では、薬学・医学分野における応用研究も取り上げる予定である。

## 2. 触媒的不斉合成の新展開

企画担当者：林 民生（京大院理）

触媒的不斉合成反応は、触媒量の不斉源を用いて大量の光学活性体を供給することのできる非常に優れた手法である。ここではその中から、不斉触媒反応の新しい可能性を追求している研究者を集結し、最先端の研究の状況を概観する。例えば、高機能新型配位子、超高活性触媒、有機触媒、水中で機能する不斉触媒、等が挙げられる。

## 3. 有機デバイスを開花させる光化学

企画担当者：寺嶋正秀（京大院理）

有機 EL などの発光デバイスは近年急速に発展成長している研究分野であり、産官学で活発に研究されている。しかし、液晶などに比べまだ成熟度の低い分野であるともいえる。昨年（2016）の年会では ATP（アドバンスト・テクノロジー・プログラム）でディスプレイ用材料の開発最前線のタイトルで有機 EL デバイスのセクションがあり多数の聴講者を集めたが、これは応用物理学的なデバイス作成技術、評価に関する発表がほとんどであった。材料とデバイス開発の有機的な連携が今後ますます重要になると考えられる状況を鑑みて、今回は、光化学者など、より純粋に化学に携わる者から、材料の基礎となる学理や新機能材料のデザイン、評価までを集中的に討論する場を設けることを提案する。

日本化学会学術研究活性化委員会において、日本化学会春季年会におけるシンポジウムの中長期テーマとして選ばれている「光化学」分野において、本題目は光化学が関与できる応用的な研究領域として脚光を浴び、光化学者のみならず関連研究領域からも聴講者を集めることができると考えている。

## 4. 金属錯体によるイノベーション —分子フレームワーク・配位空間を自在に操る。

企画担当者：田中晃二（分子研）

ボトムアップ型の錯形成反応を用いる金属錯体の多彩なフレームワーク構造の構築と、そのフレームワーク内のできるナノ空間での他の分子やイオンとの相互作用に基づく様々な物質の貯蔵や反応制御は、現在最も急速に発展して

いるサイエンスのトピックスの一つである。特に日本においてこの金属錯体を基軸とするナノ空間のサイエンスは大きく進歩し、世界を席卷してきた。例えば、アセチレンガスの高密度貯蔵およびナノ空間での単分子鎖規則重合などのそこで生まれた新しい物理現象や化学現象は、社会への大きな波及効果をもたらす成果として評価されている。本シンポジウムは、このように発展してきた金属錯体フレームワークおよびそのナノ空間に関する最先端のサイエンスを特集するとともに、そこからさらに展開が期待される分野、例えば、錯体フレームワークの特異物性、界面や異種物質との接合による多重機能などに焦点を当てて研究発表と討論を行う。本シンポジウムには、錯体化学のみならず、新規材料の合成、理論、物性、機能、応用に関する幅広い分野の研究者が参加し、錯体化学を核とする新しい物質科学への展開につながると考えている。

## 5. ナノバイオ研究に貢献するケミストリー —解析手法の新展開を中心として—

企画担当者：民谷栄一（阪大院工）

最近のノーベル化学賞をみても明らかのように遺伝子の転写（2006）、ユビキチンタンパクの分解（2004）、イオンチャンネルの情報伝達（2003）、ATP 生合成システム（1997）など生体の有する分子認識機構や分子合成機構の解明が「化学」として取り上げられている。また、質量分析、NMR など生体分子構造や解析する分析化学方法（2002）や超微量の DNA の取り扱いを可能にする PCR（1993）なども対象となっており、今日の驚異的なバイオ分析ツールへの展開を可能にしている。今回提案する課題は、「ナノバイオ」研究において本質的に求められている細胞シグナル分子のデジタル定量、一細胞レベルでの解析、細胞間の情報ネットワーク解析など解析手法などに関連する内容であり、現在、科研費特定領域研究「生体分子群のデジタル精密計測に基づいた細胞機能解析：ライフサーベイヤーをめざして」としても進行している。

なお、本企画は、日本化学会学術研究活性化委員会において中長期テーマとしても設定されている「ナノバイオ」分野における重要な課題としてバイオテクノロジー、生体機能関連化学、ナノ機能材料、分析化学など広い分野からの聴講を期待できると考えられる。

## 4. 「化学の応用」、「実用化」、「事業化」を中心とする Advanced Technology Program (ATP) ~未来社会を支える化学技術: 材料化学、バイオケミカルテクノロジー

春季年会では「化学の応用」、「実用化」、「事業化」を中心とする産学連携のための企画“Advanced Technology Program (ATP)”を実施しています。当該分野のトップランナーによるオーガナイズならびに基調・招待講演などにより、活発な討論が行われ会場は活気あふれたものになり、多くの参加者から好評をいただき、春季年会の新機軸として成功を収めました。さらに第 87 春季年会から従来の材料化学のセッションに加えバイオケミカルテクノロジーのセッションを設け、多数の参加をいただきました。

そこで第 88 春季年会でも引き続き ATP を実施いたしま

す。今回の討論主題は「未来社会を支える化学技術：材料化学、バイオケミカルテクノロジー」で、概要は以下の通りです。

開催予定日 平成 20 年 3 月 26 日・27 日（材料化学）  
平成 20 年 3 月 28 日・29 日（バイオケミカルテクノロジー）

セッションテーマおよびサブセッション一覧

1. 超ファインパターン形成技術・材料の最前線  
半導体材料など
2. ディスプレイ用材料の開発最前線  
OLED 用材料、電子ペーパー用材料、フラットパネルディスプレイなど
3. エネルギー変換材料・環境材料の開発最前線  
リチウム電池、燃料電池、電池一般、キャパシター、有機系および新概念太陽電池、水素製造材料など
4. 光学材料の開発最前線  
光通信材料、光情報処理材料など
5. プリント・ストレージ用材料の開発最前線  
インクジェット材料、電子写真材料、光ストレージ材料など
6. 未来材料
7. グリーンバイオ  
バイオコンバージョン、バイオマス・バイオポリマー

など

## 8. フロンティアバイオ

ナノバイオ・バイオマテリアル、バイオ計測・先端医学など

ATP の特色は以下の通りです。

- ・従来の春季年会発表会場（Academic Program）とは独立の目的、内容、基準により運営します。
- ・主に産業界の人材を中心に企画、立案を行います。
- ・セッションオーガナイザーおよび座長は産業界の人材にも積極的に参加いただき運営します。
- ・積極的に招待講演、依頼講演を取り入れます。
- ・ポスター発表を実施します。
- ・既発表のもの、特許化したもの、製品化したものも発表可とします。
- ・知的財産戦略や特許化の関連から「化合物 A、B」による発表も可とします。
- ・大学発の実用化、ベンチャーへの取り組みの発信、発表を歓迎します。
- ・ニーズ志向、アウトプット、製品名、実用例などを意識したプログラム編成、会場構成とします。
- ・シーズ開発研究発表も歓迎いたします。
- ・総発表 450 件、参加者 700 人以上を想定します。

産業界・大学からの積極的なご発表・ご参加をお願いいたします。

## 第 22 回若い世代の特別講演会講演者募集

第 88 春季年会実行委員会

化学および化学技術の将来は、若い世代の双肩にかかっております。本会では毎年年会の際に若い世代の研究者を励まし、次代の化学および化学技術をさらに活性化するために標記講演会を企画し、意欲的に研究を行っている若手研究者に“特別講演”の機会を設けております。この講演に対しては、本会会長から特別講演証も贈られますので、奮ってご応募下さいませようご案内いたします。

**会 期** 平成 20 年 3 月 26 日（水）～ 30 日（日）〔第 88 春季年会会期〕

**会 場** 第 88 春季年会会場〔立教大学池袋キャンパス〕

**講演件数** 選考の上、20 件以内（講演時間：25 分＋討論 5 分）

**講演資格** 本会に 1 年以上在籍する 40 歳未満（平成 19 年 4 月 1 日現在）の個人会員。ただし、本会進歩賞を受賞している者の申込資格はない。

**講演申込方法** 所定用紙請求の上、1. 講演申込書；①講演部門、②講演題目、③氏名、④生年月日、⑤会員番号、⑥所属、⑦連絡先、⑧略歴、2. 講演内容（図表を含め 2 枚）、3. 講演に直接関連した発表論文リスト（学会発表、

特許等を含み 10 件以内）、4. 申請書類（研究の意義と獨創性を 400 字以内にまとめたもの）、以上記入の上、事務局宛送付のこと。

**講演部門** 1. 物理化学、2. 無機・分析化学、3. 有機化学、4. 材料化学・高分子化学、5. 天然物化学・生体関連化学（医農業を含む）、6. 複合領域（情報・計算機化学、地球化学、環境化学、資源・エネルギーを含む）

**講演申込締切** 平成 19 年 9 月 25 日（火）

**申込先** 日本化学会 企画部 年会係 〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5 E-mail: nenkai-help@chemistry.or.jp 電話(03)3292-6163

## 東海支部支部長賞

東海支部

当支部では、支部活動活性化と化学奨励を目的として、これまで工業高等専門学校化学系の人物および学業成績が優秀な学生に対し支部長賞を授与してまいりました。新たに平成18年度より、化学系の大学および大学院の学生を対象に、卒業または修了時において人物および学業成績が優秀なものに対し、支部長賞を設けその授与を開始しました。

ここに受賞者の栄誉を讃え、その氏名(学校名)をご報告いたします。

### 【大学・大学院】34名

青木 梢(名大院工)、足立有希(信州大工)、池田知樹(名工大工)、石竹賢次(名大工)、板橋紅実(名工大工)、伊藤 浩(名大工)、伊奈真梨亜(信州大繊維)、鶴飼厚志(名大院工)、小川裕央(岐阜大院工)、小田将智(名大院工)、金澤吉憲(名大院工)、川鍋 陽(名工大院工)、北川仁美(静岡大理)、久保田理世(静岡大院理工)、鍛下優貴子(名大工)、小上将和(岐阜大院工)、近藤弓祐(信州大院工)、坂本尚徳(豊橋技科大工)、設楽裕信(岐阜大工)、柴田敏博(岐阜大工)、杉浦利枝(岐阜大工)、高木秀彰

(名工大院工)、田中崇文(信州大繊維)、棚橋宏仁(名工大工)、原田元気(豊橋技科大院工)、福田隼也(信州大院工)、船津絵里子(信州大繊維)、細川祐次(名工大院工)、前川諒介(名大院工)、丸山彬子(信州大理)、百瀬仁美(信州大院工)、山口恵理香(信州大工)、山口智行(岐阜大院工)、脇田麻衣(中部大工)

### 【工業高専】2名

竹内力矢(沼津高専)、田中芳実(鈴鹿高専)

## 「博士セミナー」開催(東京・大阪)のご案内

—博士学生のための短期集中型インターンシップ—

主催 日本化学会

共催：野依フォーラム、(財)化学技術戦略推進機構(JCII)、(社)日本化学工業協会  
後援：文部科学省、経済産業省、(社)日本経団連

科学技術で生き残りを図る日本において、科学技術を推進する原動力、イノベーションの担い手として、産においても学においても高度な知識と研究開発力を持った博士人材が非常に期待されています。一方で、博士課程在學生に企業・社会を実際に学ぶ機会が少なく、産に目を向ける場が少ないのが実情です。今回、日本化学会は、野依フォーラムおよび経団連の提言を受けて、関連団体の協力のもと、化学系学生を対象に「博士セミナー」を試行的に開催することにいたしました。これは、日本化学会の法人会員企業が協力し、当該分野を専攻する学生を対象にセミナーを行い大学院教育に協力するものです。

博士課程在學生および進学予定者の積極的な参加を期待いたします。

### 1. セミナー開催日時

東京会場：平成19年11月9日(金)～10日(土)

日本化学会・化学会館

<http://www.csj.jp/kaimu/office/map.html>

大阪会場：平成20年1月25日(金)～26日(土)

大阪科学技術センター

<http://www.ostec.or.jp/pln/map.html>

### 2. 博士セミナー受講対象者

化学系専攻博士1年生および博士進学予定の修士2年生  
各地区 50名 計100名

### 3. 参加料

無料(懇親会費を含む)

### 4. 「博士セミナー」の趣旨

産学の協力を得て、博士課程在籍学生に、産での活躍の

意義、産の期待、ニーズをセミナーを通じて、直接伝えることにより、優れた博士人材がより多く産で活躍することを期待するものです。

内容は、

イ. 産での活躍の意義・やりがい・楽しさを知ってもらう(アカデミア以外のキャリアパスを知ってもらう)。

ロ. 産の実際を知ってもらう(ホットな研究開発やイノベーションの事例、大学と企業の研究の違い等)。

ハ. 博士卒資質に対する産の要望と期待(博士の期待像)を伝える。

ニ. 博士に対する経済的支援、採用、処遇についての産の取り組みを博士学生に直接伝える等。

講師としては経営トップから研究所長、リサーチフェロ

一、若手の研究者やエンジニア等幅広い企業人に話してもらい、十分な質疑応答と議論によりお互いの理解を深めます。また、懇親会を開き交流を深めます。

## 5. プログラム

### [第1日目]

- 9:00～ 主催者挨拶 日本化学会副会長  
 9:10～ 基調講演「産業の意義、産業界で働く意義」  
 ダイセル化学工業(株) 八浪哲二 取締役常務執行役員  
 10:30～ 研究開発事例 (I)「気相法ベックマン」  
 住友化学(株)基礎化学品研究所 杉田啓介氏  
 12:00～ (昼食)  
 13:00～ パネルディスカッション「博士への期待と要望/大学と企業の違い/イノベーションを担う博士」  
 企業研究者 4名 座長:府川伊三郎(旭化成)  
 15:10～ パネルディスカッション「博士卒先輩のアドバイス」  
 企業若手博士卒研究者 4名  
 座長:田島慶三(三井化学)[東京]、山近 洋(住友化学)[大阪]  
 16:50～ グループ討議  
 18:30～ 懇親会

### [第2日目]

- 9:00～ 基調講演「企業での研究の意義とやりがい・楽しみ」  
 花王(株) 川俣 章 素材開発研究所長

- 10:20～ 研究開発事例 (II)「水なしCTP」  
 東レ(株) 長瀬公一氏  
 11:50～ (昼食)  
 12:50～ 事業化事例「視野角拡大フィルム」  
 富士フィルム(株) 佐々木 格氏  
 14:30～ 研究開発事例 (III)「トランスフェラーゼ類の高機能化」  
 味の素(株) 鈴木榮一郎氏  
 16:00～ 研究開発事例 (IV)  
 「過活動膀胱(OAB)治療剤の創製」アステラス製薬(株) 内藤 良氏 [東京]  
 「CD-R、DVD-R用色素の開発」三菱化学(株) 前田修一氏 [大阪]

## 6. 申込方法

日本化学会ホームページ (<http://www.csj.jp>) または下記事項を明記してFAX またはE-mailで担当:松原までお申し込み下さい。

①参加会場名、②参加者の氏名、③所属、④学年、⑤連絡先(電話、E-mail)

申込期限:東京会場 9月25日 大阪会場 11月30日

## 7. 申込・問合せ

申込先:松原 FAX(03)3292-6318  
 E-mail: [matsubara@chemistry.or.jp](mailto:matsubara@chemistry.or.jp)  
 問合せ先:百武 電話(03)3292-6163  
 FAX(03)3292-6318  
 E-mail: [hyakutake@chemistry.or.jp](mailto:hyakutake@chemistry.or.jp)

## 会員委員会からのお知らせ

### [日本化学会新入会者のご紹介]

平成19年6月承認の本案新入会者は次のとおりです。

#### ○個人正会員 (23名)

足立 昌則	荒瀬 秀和	安藤 敬	石窪 章	市川 良介	岡野健太郎	片山 靖	加藤 勝美	鹿子木亮太
北所 健悟	北本 靖子	久保 正樹	栗本 修	篠原おりえ	鈴木 浩史	高橋 隆太	高良 聡	塚村 聡
津田 薫	津留美紀子	聖山 光政	古屋 俊樹	A. Zayed				

#### ○学生会員 (70名)

池本 祐輔	伊藤真紀子	稲原 誠一	上野可菜子	榎本 洋人	大竹 理恵	大家 創	奥仲直太郎	小野 実穂
景山 克博	葛西 邦生	加藤 敏幸	金尾啓一郎	神谷 昌宏	河原 隆介	神田 英行	工藤 史人	國谷茉莉子
栗田 瞬	小妻 宏慎	崔 協力	坂井 亮介	櫻井 淳子	佐藤 悠樹	重岡 俊裕	嶋田 恵	清水 伸幸
菅原 紀之	杉山 二郎	鈴木 崇之	大門 愛	高田 瑠美	高橋 伸夫	滝沢 美穂	田崎奈津美	田中 隆行
谷 昌美	田村 博之	槻木 智史	出川 嘉朗	藤 成美	中川幸次郎	成田 和世	西村 悠	旗谷 那奈
早川 謙一	早瀬 裕子	樋口麻衣子	福田真紀子	星山 美姫	穂積 賢司	松尾 潤一	三好 和義	村田 裕亮
村山 良直	望月 信介	森 梓	森 隆	森本 浩之	八木 寛陽	山口 英	山口 惣大	山口 武志
山田 泰弘	梁 仁丁	湯田 康祐	吉國 拓郎	吉田 達郎	渡邊 俊貴	渡 伸一		

### [会員訃報のお知らせ]

7氏の訃報に接しました。本会はここに謹んで哀悼の意を表すとともにご冥福をお祈りいたします。

早福 昭介 岡田 行弘 次田 皓 相川 覚 市川 濟 藤堂 尚之 宮原 豊

## 「化学と教育」誌 目次紹介と購読方法

化教誌編集委員会

### 1. 目次紹介 (第 55 巻第 8 号)

ヘッドライン：金属材料は今おもしろい

簡単にできる「たたら製鉄」と現代の鉄づくり

……………永田 和宏

鋼の素晴らしさ—世界最高の性質に挑戦する自動車用鋼板—……………竹山 雅夫

金属の腐食と表面処理技術……………水流 徹

鋳物の魅力と現代の鋳造技術……………里 達雄

講座：らせんの織り成す不思議な世界 3

……………棚谷 綾・影近 弘之

講座：周期表を読む 1—ハロゲン—……………宇根山 健治  
レーダー、化学実験虎の巻、定番化学実験、投稿論文、ほか。

### 2. 購読方法

〔個人〕

1) 日本化学会会員の方は、会員番号、氏名、連絡先を明

記の上、購読料（年間 5,400 円）を添えて下記宛にお申し込み下さい。

2) 化学または化学工業に関係のある学校教育に従事する方で購読希望の方は、教育会員（年間会費 7,200 円）として入会されますと「化学と教育」誌の無料配布が受けられます。また教育会員で学生の方は学生割引で年間会費が 4,800 円です。入会申込書は下記宛ご請求下さい。

〔団体〕

学校、図書館、官公庁等、団体として購読することもできます。公共会員（年間 9,000 円）に入会されますと無料配布が受けられます。入会申込書は下記宛ご請求下さい。

申込先：101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5

日本化学会会員係 電話(03)3292-6169

## 会員から 6月号「部会だより」を読んで

毎月「化学と工業」を送っていただき有難うございます。6月号 p.605、部会だより“バイオエタノールの取材協力で感じたこと”を読み、このようなことを言えるのはこれに関連する研究者の会員数の多い、日本化学会だからこそ思いました。松根油で飛行機、大豆油で戦艦やまと、木材からアルコール、糖、時代を勤労働員、中学生で過ごした私は石油に代わるバイオ燃料に関する結構ずくめの過去を顧みないというより無視した、マスコミ、それに乗せられた公的な報道に疑問を感じています。例えば木材の利用については、厚木勝基先生の著書“木材の化学とその化学的応用”があり、木材の糖化等が記されているはずですが。テレビだったと思いますが、ある研究機関で同じことがあったかも自分たちが初めて行ったような報道がなされました。生ごみ、動物の排泄物の発酵によるメタンの製造もかなり古く（戦前）から行われ、問題点が解決されないで（できるメタンを燃やすより作るエネルギーの方が大きい）実用化が遅れ遅れになっています。歴史を無視してキャンペー

ンで盛り上げる今までのやり方の繰り返しは再び過去と同じ結果をもたらすのではないのでしょうか。バイオの方面でも同じことが言えます。

私の住む越谷市は焼却設備が優れプラスチックも焼却、そのエネルギーを再利用しています。また、今問題のスーパーの袋で生ごみ等を出せますから、別にごみ袋を買う必要はありません。したがって以前住んでいた町のときより、それに関する費用は少なくて済んでいます。しかし、このようなことは熊野谿先生（東京大学名誉教授）が日本化学会の年会でヨーロッパの例を挙げて有効な焼却がよいとご意見を述べておられます。青山学院大学で行われ、向坊隆先生が総長任期満了直後の日化年会の、プラスチック再利用のシンポジウムの席でのことと記憶しています。

蛇足ですが、スーパーの袋の重さは大きいので 6g、新聞の折り込み広告は毎日 300g~1kg、ますます大型化しています。その中にプラスチックフィルムの大型封筒入りも多くなりました。サイズ半分以下で十分と思います。現在私は平均週 1~2 日の仕事なので折り畳んで回収に出しますが、共働きの方は時間がないので燃えるごみに出すと聞いています。なお、市は回収紙の再生ルートも持っているそうです。 [大屋正尚（群馬大名誉）]